水産資源増殖機能調査

礒田　能年

◆背景・目的

現在の早崎内湖は平成13年に湛水され、琵琶湖とつながりを持たない閉鎖水域であった。今年度、丁野木川に樋門を設置し、琵琶湖と北湛水区が接続され、内湖再生が期待されている。接続前後の早崎内湖の現状を把握するため、平成17年度から環境調査、魚類相調査、ニゴロブナ標識放流調査などを実施している。

◆成果の内容・特徴

・樋門設置後には、これまでの調査を通して初めて、ビワヒガイ、アユ、オイカワ、ヌマムツ、ウツセミカジカ、カムルチーが採集され、樋門設置により魚類が進入してきていることが示唆された。

・早崎内湖北調査区では昨年度に引き続き、琵琶湖の水質基準値と比較しても非常に高い値を示した。また、6月から北湛水区においてアオコが発生するなど、富栄養化状態が続いている。（図１）

・早崎内湖北調査区に7月2日に放流したニゴロブナ稚魚（平均体長19.0mm）は12月には平均体長が61.8mmまで成長した。（図２）

◆成果の活用・留意点

今後、琵琶湖と接続により、早崎内湖の環境や魚類相および生産力の変化についての検討を行う。

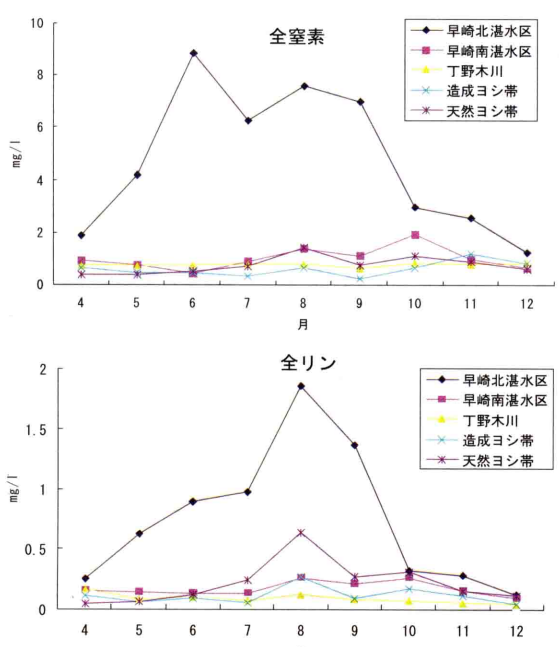

図１．全窒素と全リンの推移

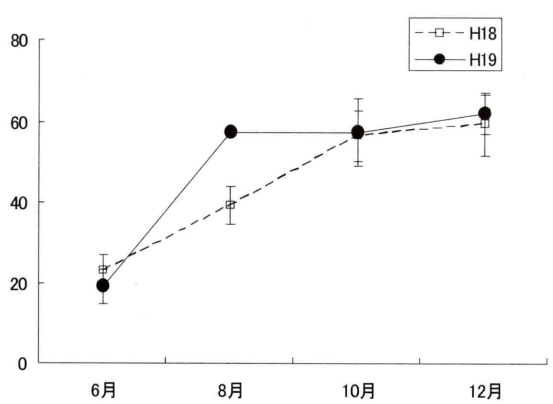

図２．採捕された放流魚の平均体長